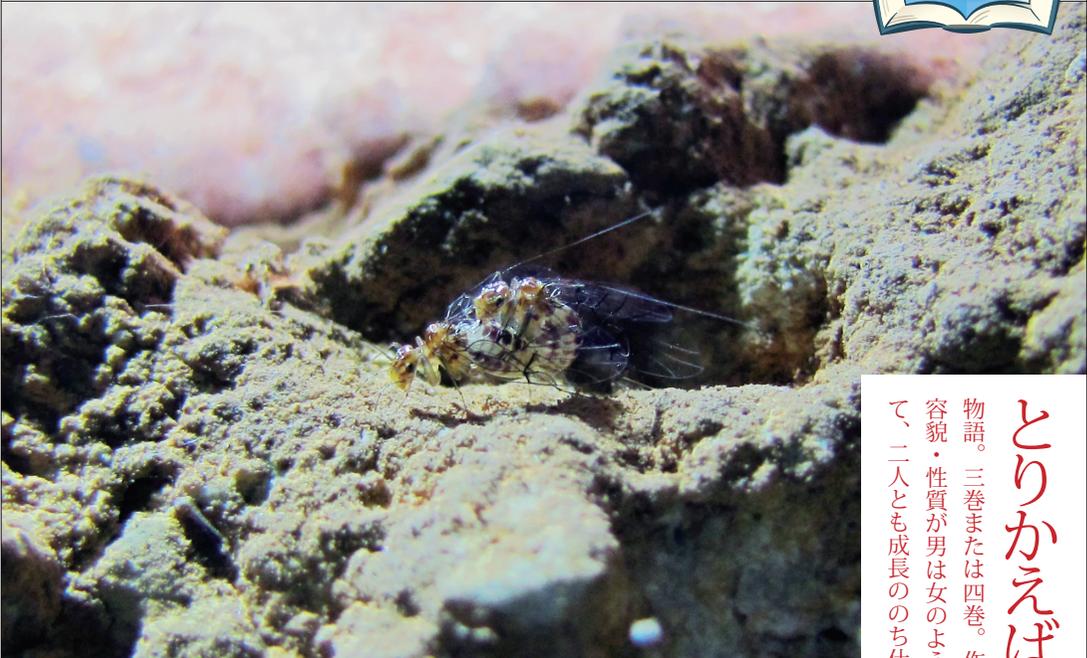


広辞苑を3倍楽しむ (第72回) とりかへばや物語



トリカヘチャタテの一種 *Neotrogla curvata* の交尾。上に乗りにかかっているのが雌。

男女の入れ替わりを題材とした物語は多い。私たちはしばしば性の違いに、「男らしさ」「女らしさ」といった違いも認め、その逆転は時にはコミカルな、時にはスリリングな物語を生み出す。

ブラジルの乾燥地帯の洞窟に棲息するチャタテムシの仲間、トリカヘ



トリカヘチャタテの一種 *Neotrogla aurora* の雌ペニス。水色で着色した器官が雄に深く挿入され、緑、赤で着色した器官で雄を拘束する。

チャタテでは、そんな性の「とりかえ」が現実に見られる。トリカヘチャタテの雌は、雄の背後から馬乗りになって交尾し、しかもペニスに似た交尾器を「雄に」挿入する。さらにこの交尾器で、雌は雄を平均 50

時間も羽交い締めにし、雌は雄から精液をせしめる。多くの雄の精液は受精には使われず、卵を成熟させるための栄養としてのみ消費される。

生物学的に雌雄は、それらがつくる配偶子の大小により定義される。大きな配偶子、卵をつくるのが雌、小さな配偶子、精子をつくるのが雄、という具合である。トリカヘチャタテの雌は究極的に男性的でありながら、卵を産むという点で、生物学的には雌であり続けるのだ。

吉澤和徳 よしざわ かずのり (北海道大学農学部昆虫体系学教室)

とりかへばやものがたり【とりかへばや物語】
物語。三巻または四巻。作者未詳。現存本は平安末期の作を改作したものという。ある貴族に男女の子があり、容貌・性質が男は女のように、女は男のようであったので、父は「とりかへばや」と、男を女に、女を男にして育て、二人とも成長ののち仕官したが、種々の不都合が生じて、姉弟その本性の姿に戻って栄えたという筋。